

山田緑地の整備について

陳 情 第 9 1 号
平成30年6月11日
建設局みどり公園整備課

1. 山田緑地の概要

【経緯】

- ・ S16年までは集落があり、**里地里山**として利用。
- ・ S9年から旧日本軍による弾薬庫建設、使用を開始。戦後は米軍が接収、利用。
- ・ S47年に米軍から旧大蔵省に返還された後、跡地利用を検討。
- ・ S62年から都市公園として整備を開始、H7年に広域公園「山田緑地」が開園。



S10年頃の山田集落の様子



S43年頃の山田弾薬庫の様子

【基本情報】

公園種別：広域公園（市町村を超える広域のレクリエーション需要を充足することを目的とする公園）

所在地：北九州市小倉北区山田町

開設面積：約 47ha

都市計画決定面積：約 140ha

指定管理者：九州造園・グリーンワーク共同企業体（H26～H30年度）

来園者数：約 77,000人/年（H29年度実績）

【計画テーマ】

「30世紀の森づくり」

【基本方針】

・ 自然環境と文化の継承

照葉樹林を骨格とした多様な自然環境とそれらを継承する思想や行為といった文化（**里山文化**）を30世紀に至るまで伝えてゆく。

・ 環境活動機能の充実

楽しみながら自然について知ることができる環境教育機能、調査研究機能を備え、環境情報を集積・発信できる場とする。

・ 生物相の維持（拡大）

生物相の多様性を維持し、さらに拡大してゆくことを目指す。

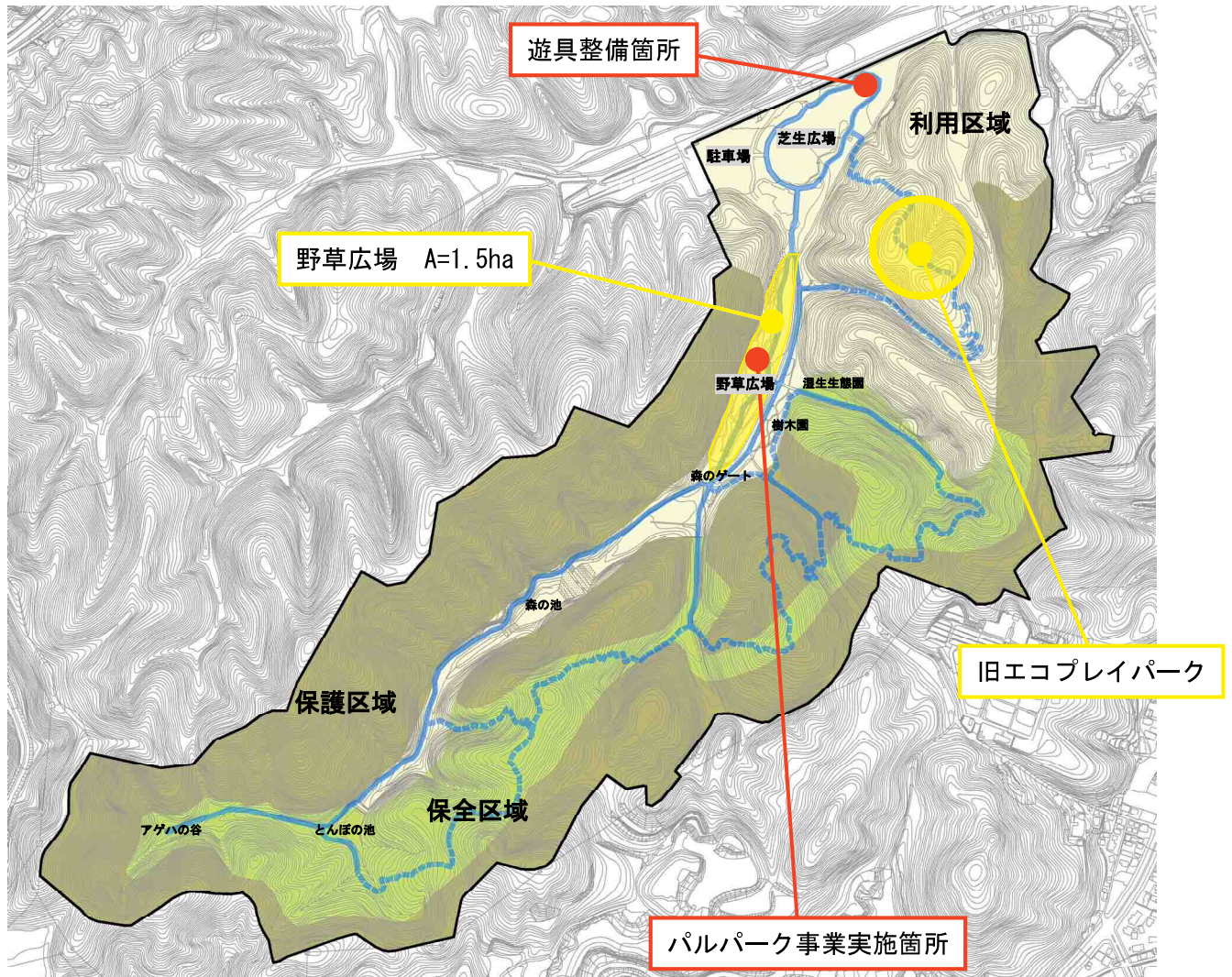
・ まちと自然の接点としての存在

市民が日常的に自然に接し、末永く親しむことができる場とする。

・ 土地利用区分の設定

利用区域、保護・保全区域に分ける。

2. 山田緑地区域区分図



- 利用区域 (約 40ha) : 人々が自然と接し、親しむために利用する区域
- 保全区域 (約 30ha) : 現植生を維持する区域
- 保護区域 (約 70ha) : 現植生を極相林に遷移させてゆく区域

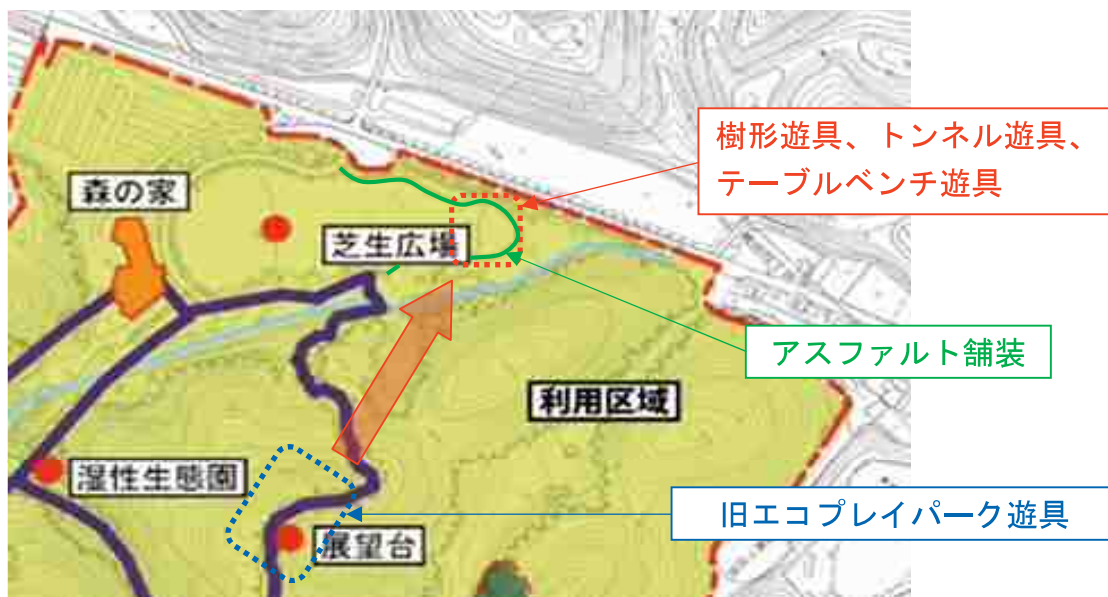
3. 山田緑地における遊具整備について

■概要

工 期：平成 30 年 3 月 29 日～平成 30 年 7 月 31 日

工事内容：樹形遊具 1 基、トンネル遊具 1 基、テーブルベンチ遊具 1 基、
アスファルト舗装 500 m²、舗装表面処理 938 m²

設置場所及び遊具



旧エコプレイパーク遊具

①

更新



樹形遊具

木登りを疑似体験することができる。

(規模：H=約 11m)

②



トンネル遊具

木の中をくぐり抜けて遊ぶ。

③



テーブルベンチ遊具

ドングリや落葉等をテーブルの上に乗せて遊ぶ。

4. 山田緑地におけるパルパーク事業について

【経緯】

山田緑地の新たな魅力づくりの検討を進めるなかで、(株)小学館発行のアウトドア雑誌 BE-PAL が展開する「パルパーク」のコンセプト「子どもたちが自然を楽しみ・学び、自由に遊べる理想の公園づくり」が山田緑地基本計画に示される自然型プレイパークのコンセプトに合致するものであった。

そこで、平成 30 年 2 月に BE-PAL 誌と本市との間で包括連携協定を締結し、まずは山田緑地において自然を活かした遊び場づくりを行うこととした。

自然型プレイパークのコンセプト（山田緑地基本計画より）

- ・ 自然の中で、土（泥）、火、材木等を使って自分の手で作り、考えながら楽しく遊ぶ空間。
- ・ 自然を知るうえで最も基本となる素材に触れる場を提供する。



【計画箇所】

利用区域「野草広場」内の一部。

【実施方針】

- ・ 市民参加イベントとしてパルパークづくりを実施する。
- ・ 基本的に現地調達した自然素材を使って整備する。
- ・ 森林管理で発生した材等を使用し、管理と活用が連動した取組として進める。

【進捗状況】

4 月、5 月に木登りゾーンとして、山田緑地の自然素材を活用したツタのブランコづくり等を市民参加で行った。各開催日ともに 100 名程度の親子参加があった。



パルパークづくり (H30. 4. 29)

【今後の取組】

山田緑地内を流れる川に触れる「親水ゾーンづくり」や「焚き火ゾーンづくり」を市民参加によるイベントとして行う予定。

5. 山田緑地における園路の改修工事（アスファルト舗装）

区分	アスファルト舗装(石灰石)	土系固化舗装
舗装状況	 <p style="text-align: center;">現況</p>  <p style="text-align: center;">表面処理後</p>	
耐用年数	約20年	約10年
備考	骨材に石灰石を使用したもの	真砂土と固化剤を混ぜ合わせ固めたもの